

腹痛の診察

— 外科医が教える

AI時代に必要な診断技術—

AIにできない“さじ加減”が、診断の決め手になる。

共通領域：AIが得意



- ✓ 心電図・血液検査・画像診断などのパターン認識はAIが高精度
- ✓ AIが必要な検査を指示し、診断の精度を支援
- ✓ 非専門医でもAIのサポートで迅速な初期対応が可能に



心電図 血液検査 CT・画像診断 AI解析

AIが「すべきこと」を示す時代へ。
効率的な診療が可能に。

腹痛の診察：まだまだ人間の領域

- ✓ 触診は、微妙な“さじ加減”が命
- ✓ 患者の表情・反応・背景を読み取る力
- ✓ 痛みの性格や不安の程度まで含めた総合的な判断
- ✓ 痛みについて考える力が、診断を深める



人の手だからこそわかることがある。
それが、医師の価値。

AI時代だからこそ、医師にしかできない診察技術を磨く。
外科医の視点から、腹痛診察の本質を徹底的に解説します。



痛みについて考える

痛みの性質や背景を多角的に評価し、なぜ痛いのかを深く考える力を身につけます。



シナリオ・症例を使って学ぶ

実際の症例や臨床シナリオを用いて、問診・触診から診断に迫る過程を実践的に学びます。



エコーを活用して学ぶ

エコーを活用して、診察の精度を高める実践的な方法を体験しながら学びます。



9月14日(月)
18:00-20:00



対象
医学科4、5、6年生
初期研修医



会場
第2スキルラボ
(共用施設棟5階)



講師 熊倉裕二

(消化管外科 地域医療研究・教育センター スキルラボ部門)

主催

群馬大学医学部附属病院 地域医療研究教育センター
群馬大学大学院医学系研究科 医学教育開発学講座
ぐんま総合診療医センター

申し込み



お問い合わせ：
スキルラボ部門（担当 井草 剣持）
✉ skill.lab@ml.gunma-u.ac.jp